

## 6 まとめ

今年度の調査では、屋敷地の東端の一部を調査し、屋敷を囲む区画溝や掘立柱建物の柱穴、木簡2点等が出土しました。屋敷地は調査区外にさらに広がっています。

水田は22年度の調査区の北側を調査しました。屋敷が消滅した後の水田と同時期の広範囲な盛土を確認しました。また、屋敷地と同時期の水田面を上下に3枚検出しました。水路も検出し、より水田の構造が明確になってきました。今後さらに下面にも調査を継続していきます。そして3年間の調査結果を総合して遺跡の性格を解明したいと考えています。



図3 中世の水田・X層（東南から）



図4 溝 870号 護岸の杭列・X層（北西から）



図5 第一号木簡(茅札)

図6 第二号木簡(種子札)



図7 小坂居付遺跡復元図

佐藤俊 作